

児童書 ひつじの王さま



(0~5歳児向け)

オリヴィエ・タレック 作 (くもん出版)

一匹のひつじがある日突然、王さまになった。王さまになったひつじは、立派な玉座、立派なベツドを用意して、それから、法律を作った。王さまになったひつじの行動は、さらにエスカレートして

野生動物は何を見ているのか



佐藤克文・青木かがり 共著 (丸善ブライネット)

小型の記録計を動物に取り付けて、観察が難しい動物の行動や生態を調べる、バイオロギング。その装置を片手に世界中を駆け回り、野生動物が普段どんな光景を目にして、何をしているのかを調べる動物生態学者たちの奮闘を綴る。

伝統野菜をつくった人々



阿部希望 著 (農山漁村文化協会)

今日のF1品種につながる固定種野菜を作出し、その品質維持、流通を担った明治から昭和戦前期までの「種子屋」たちの足跡を、経営帳簿・注文ハガキ・種苗カタログなど貴重な一次史料をもとに辿る。

文化庁国語課の勘違いしやすい日本語



文化庁国語課 (幻冬舎)

無然、他山の石、姑息……。これらの言葉の本来の意味を理解している？「国語に関する世論調査」で分かった、三十六の言葉の意味の捉え方を用例とともに紹介。文化庁ウェブサイトでも公開した「言葉のQ&A」に加筆し書籍化。

豊山俳句クラブ

青山克己 選

坪井昭子 大雪の空どこまでもがらんどう

杉浦みどり ありのまま生きて来たりし冬銀河

村上ゆり子 村の当て子 新たな年初め

小塚美枝 大樹寺の重き山門冬に入る

石黒貴代子 無機質のビルの谷間の大銀杏

杉本衿子 白椿斯くも白々天を指す

坪井径子 風のまま路地へまどひし落葉かな

豊山歌壇

水野笑子 選

荒川昌枝 大きなバツタ捕らへたれども如何に

せんと思ひ迷ひて公園に放つ

安藤定岳 家の方ずむしの声聞こえ来る

一柳千鶴子 おそらくは中国よりの有毒の

井上とよほ 豊山の町史に基づく講座受く

この地に育つも知らぬが多し

安藤春一 古里の日々の営み柿すだけ

青山とも子 山茶花の小さき日向に猫眠る

水野真弓 縁側の母の丸椅子暖かし

高木須磨子 物陰に張り付くやうに冬の蝶

田村多喜子 椅子二つ置かれしままに冬される

岡島 齋 許される嘘もありけり十二月

青山克己 そこにあることの千年大銀杏

木村和子 物忘れ多くなりしを自覚する

榎田真寿美 庄川のほとりに秘湯の温泉宿

安達洋子 ダムに沈むを湖面に移せし

小出寿枝 月明かり松の枝間に見える星

近藤時峰 年重ね旅に出るのもままならず

家族の健康今さらに思ふ

このあたり小川も無くて魚達は

いづこに行きしか昔なつかし

佐藤良子 庄内の川面を染めて沈み行く

大き夕陽を夫と眺めぬ

編集後記

平成七年一月十七日、兵庫県を中心に襲った阪神・淡路大震災。警察や消防機関による救助には限界があり、実に救出者の九十八パーセントは住民自らの活動によるものだった。この震災以降、住民と行政との協働の意義が改めて認識された。理想は、行政により全ての救出活動が行われることかもしれない。しかし、そのためには平時から膨大なコストが必要であり現実的でない。災害時には日頃からの住民どうしの顔の見える関係が大きな力になる。顔の見える関係の構築のため、小中学校区程度の単位における住民団体の役割に注目が集まっている。いかに大きな都市であっても、絆を紡げる範囲は限られているためだ。災害時の救助のほかに、地域の力は防犯、高齢者介護などにも発揮される。地域には様々な知識や技能、何より意欲を持った方々がいる。協働の深化のためには、そういったかけがえない町の「人材」に自己実現の機会を提供すること、機運を盛り上げることが、行政に求められる。幸い、本町は一つの中学校区で構成されている。行政と住民、一丸となって、協働のまちづくりを進めていきたい。